

発達障害への対応から考える 子育ての基本

② 発達障害とは？

医師 元田玲奈



「発達障害」は病気？

- 「障害」と言われると・・・
- 一般的な「病気」のイメージとは違う
- 多様性の一つ（ニューロダイバーシティー）
- 社会があるから生じる概念
- 文化の違いでも左右され得る
- 発達していけば、「障害」ではなくなることもある



医学モデルにおける「障害」

- 「障害」とは、身体どこかに原因があり、
医学的に診断される個人の疾病・損傷・機能制限のこと
- 生まれつき、または怪我や病気などで不具合が生じているのは、「個人の問題」
- 個人が治療やリハビリに取り組んで解決していくもの

と する見方

医学モデルにおける「障害」



階段を昇れない
個人の問題

昇れるように個人が
問題解決する



社会モデルにおける「障害」

- 「障害」を**社会の仕組みによって生み出される不利益や活動の制限** とする見方



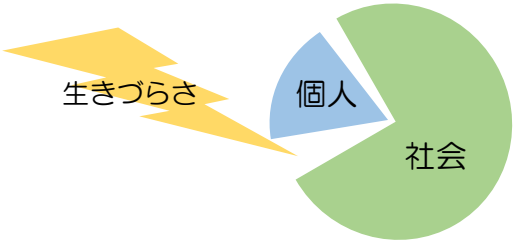
段差が「障害」



段差「障害」をなくす

療育モデルにおける「発達障害」

- 「障害」を「個人の発達特性・凸凹」と「社会の仕組み」との**ミスマッチ** とする見方

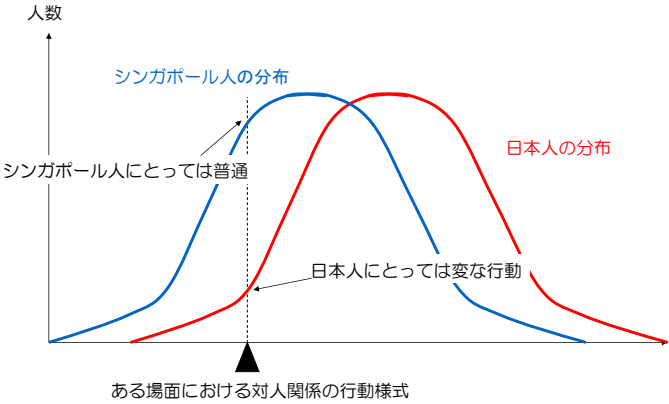


療育モデルにおける「発達障害」

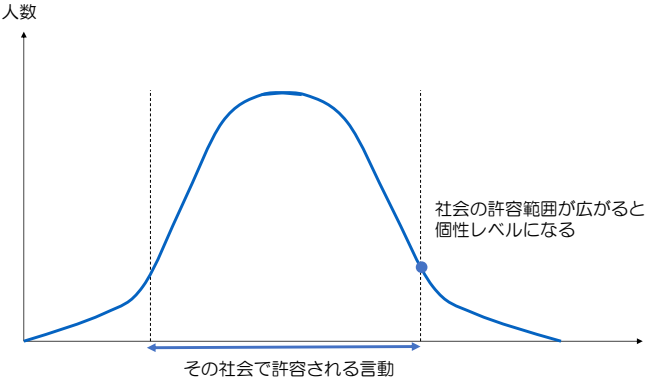
- 「障害」を「個人の発達特性・凸凹」と「社会の仕組み」との**ミスマッチ** とする見方



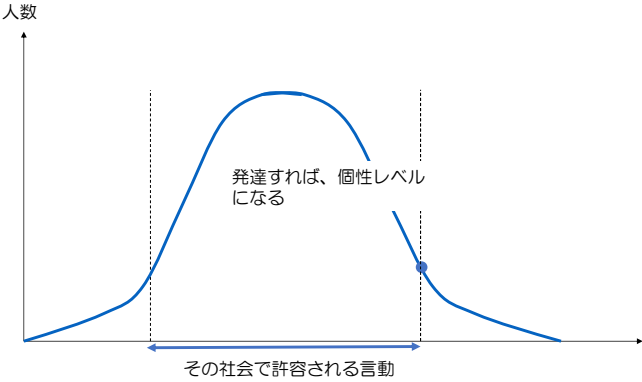
「社会」との関係が問題



「個性」と「障害」の境界は？



「個性」と「障害」の境界は？



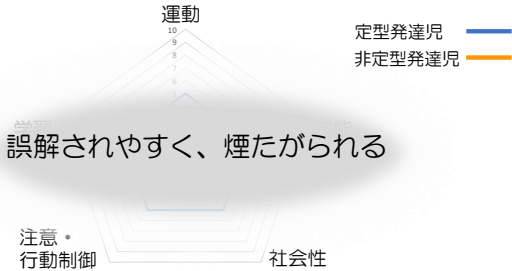
「障害」？「特性」？「個性」？

発達障害	発達特性	個性
多い	困りごと	少ない
支援	対応	工夫

発達特性・凸凹 = 生まれつきの遅れ・偏り
困りごと・不適應 ← 凸凹と環境とのミスマッチ
発達障害 = 発達特性・凸凹 + 不適應

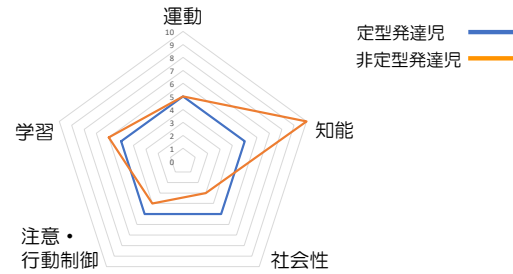
「不適應」から「適應」へ

- 発達特性 + 不適應 = 発達障害
- 理解と配慮と工夫が必要

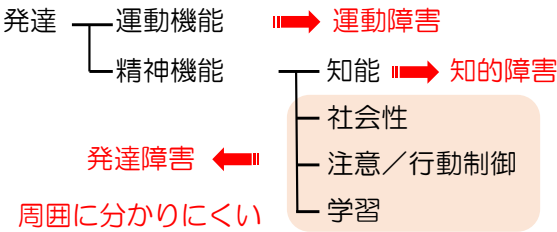


「不適応」から「適応」へ

- 発達特性 + 適応 = 個性
- 発達特性は強みにもなる！（凸凹は残る）



どうして「発達障害」というの？

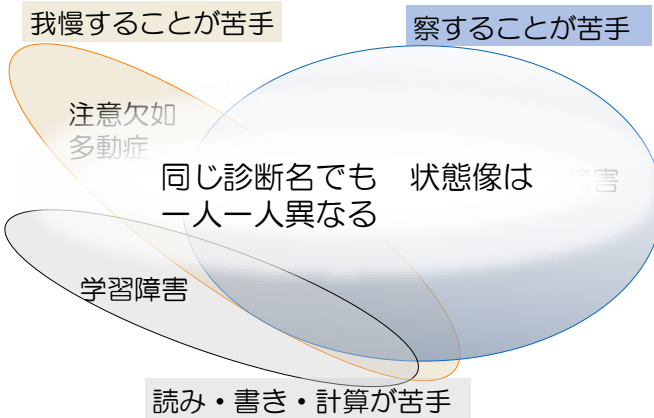


周囲に分かりにくい
生きづらさがある

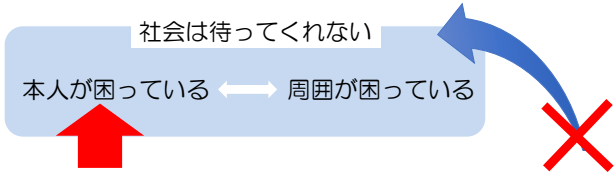
一言で表しているのが「診断名」

診断は「本人の生きづらさ」を分かってもらう合図

発達障害の関係



何が問題なの？



- * 困っている なら「対応・支援」
- * なぜ困っているのか？ > 特性の見立て・診断
- * 困りそう も 放置しない！
- * 診断は「適切な対応」のため（本人のため）

診断をめぐる問題

- 初めに診断ありきではない
- 医学モデル VS 療育モデル
- 「っぽい」「グレー」「特徴がある」は、診断と同じこと
- 診断されていない ≠ 何もしなくて良い
- 今は困っていない ≠ 何もしなくて良い

「生まれつき」ならどうしようにもない？

- 『凸凹』は残るが、『困り感を軽減』はできる
- 誰にでも発達する力はある
- 経験の中で対処法の獲得
- 周囲（特に養育・教育者）の理解と働きかけ

⇒ 『治療』ではなく『対応・支援』

⇒ 『子育て』そのもの

⇒ 『発達障害は発達する』